

日本文化 着物 の代表

柏陽中学校2年 畠山 恵

目次

| | |
|-------|-------|
| 目次 | ... 1 |
| 調べた理由 | ... 2 |

着物は日本の民族衣装

| |
|--------------------------------|
| 民族衣装と呼ばれる着物はどんなとこに着る? ... 3 |
| 仕事で決まる! 特別な着物 ... 7 |
| 着物にまつ名前を知らる ... 9 |
| 着物を知らる簡単な手順 ... 11 |
| 着物の小物を知らる! ... 15 |
| 季節感と「格」が大切! TPOにふさわしい着物 ... 16 |
| こころがえは着物の楽しみ ... 20 |
| 色で四季を表現する ... 22 |
| 模様にごめられた意味を知らる ... 23 |
| 着物をリメイク・リサイクル! ... 25 |

江戸時代の女性のスタイル ... 27

着物を身近に

| |
|---------------------------|
| ゆかたを実際に着てみる ... 28 |
| 着物での体のさばき方 ... 33 |
| 着物の工夫・知恵 こんな時どうする? ... 35 |
| 小物から楽しむ着物・ゆかた ... 37 |
| 着物をかたづけ ... 38 |

もっと着物を知らる

| |
|--------------------|
| 染め・織りの基本 ... 40 |
| 全国の染め・織りマップ ... 44 |
| 着物年表 ... 46 |
| 現代の着物事情 ... 48 |
| 着物と単位 ... 49 |
| 続・もっと着物を知らる |
| 着物年表2 ... 50 |
| 現代の着物事情2 ... 53 |

| |
|----------------------|
| まとめ・利用した本・サイト ... 54 |
|----------------------|

調べた理由

雑誌などでやがたを見て、「日本独自の服を着る機会が減っている」と
思い、日本の民族衣装ともいわれる「着物」について調べてみよう
と思いました。

着物は日本の民族衣装

NO.

3

DATE

民族衣装と呼ばれる着物はどんなときに着る？

お正月

1年の中で着物を着た人をいちばん多く見かけるのは、やはりお正月。1年の始まりはおめでたいハレの日だから、はなやかな「晴れ着」を着て迎えるのです。若い女性は振袖を、男の人は羽織袴で。



-MEMO-

ハレの日

日本に古くからある考え方で、日常生活を「ケ」おめでたい日を「ハレ」に分ける。

肩揚げ

肩の部分を経緯を上げて、袖の長さを調整するための仕立て。

本裁ち

一反からおとな用の着物一着を仕立てること。それまで身長にあわせて「一つ身」「三つ身」「四つ身」と仕立てが変化する。

お宮参り

赤ちゃんが産まれたことを、氏神様(うじがみさま)に報告するのがお宮参り。お母さんやおばあちゃんにだっこされた赤ちゃんは「掛け着」と着られる祝い着をかけてお参りします。



Q&A

Q 氏神様とは？

A 氏神は日本において同じ集落に住む人々が共同で祀る神道の神のこと。同じ氏神の周辺に住みその神を信仰する者同士を氏子という。

七五三

子供の成長のしめを祝う伝統的な行事。女の子は3歳と7歳、男の子は5歳のときに着物を着て氏神様にお参りします。



3歳

お宮りの掛け着を着ることが多い。
着物の上から袖のない「被布」を着る。



7歳

振袖に帯を締め、大人と同じあつらえに。



5歳

小さいながら紋付の着物に羽織と袴で大人のお正装と同じ。

Q&A

Q なぜ千歳飴？

A 千歳飴は親が自らお子に長寿の願いをこめて糸田長くなってお縁起が良いとされる糸白それぞれの色で着色されている。

千歳飴は江戸時代の元禄・宝永の頃浅草のあめ売り七兵衛が売り出したのが始まり。

十三参り

13歳になる子供が「虚空蔵菩薩」にお参りして知恵をさおけてもらう行事。十三参りで始めて大人と同じ「本裁ち」の着物を着て、肩揚げをほどこし、大人の仲間入りをするのです。



結婚式

日本の伝統的な衣装は「白無垢」と「色打掛」。白無垢は着物がら帯、下着まですべて白で、綿巾帽子や角隠しをかぶります。色打掛は光沢のある緞子(じゆんす)ちりめんの生地に鶴亀、木瓜(扇子)などおめでたい柄を金糸(きんいと)や金銀子(ぎんぎ)を使って刺しゅうします。男の人には、黒羽二重の五つ紋のきめ長着と羽織に仙台平の袴が一揃いの。



MEMO

角隠し綿帽子

どちらも白無垢にあわせる花嫁のかぶりもので、角隠しは長方形の白絹に髪をとめたもの、綿帽子は白絹を袋の形に仕立てたもの

緞子ちりめん

たて糸よこ糸を5本ずつセットにして織る、ふ厚く、華やかな織物。

羽二重

やわらかく、上品な光沢がある絹の布地

仙台平

しま模様(縞)に織られた袴用の着地。しまが細かいほど年齢が高い人にふさわしい。

お葬式

黒一色で染めた無地の着物に白で染めぬいた家紋が入ります。女の方は半ズリと足袋だけが白で帯あけ、帯じめ、ぞりも黒にします。男の方は足袋、ぞりの鼻緒も黒にします。



お祭り

お祭りのときなど、町や組ごとにそろいで着るはっぴも着物の一種。江戸時代、身分の低い武士などが、動きやすい様に上着の丈を短かくしたのが始まりです。下半身はふんどしそのまま。



成人式卒業式

どちらも大人になるひとつのふしめ。「記念に」と着物を着る人が多い行事です。袴とブーツを合わせるのは大正時代の「モダンな(新しい)」スタイルです。



仕事で決まる! 特別な着物

舞妓

唄や舞いでお客を楽しませる舞妓さん。はなやかに見える様に、たまための長い振袖を着て、帯の先を長くたらし「だらりの帯」をしめ、長いすそをたらしないように、底の厚い「おこぼ」をはきます。だらりの帯は4~5mほどあり、普通の帯の3倍の長さ。

巫女

長さが足首まであり白い単衣にスカートの様になっている「行灯袴」をはきます。袴の色は赤(濃)は、結婚していない人をあらわす色だったことに由来します。

能装束

能の舞台で着られる着物で、室町時代の終りごろからどんどん豪華になりました。袴と着付け、上着がなり、金、銀を使った豪華な織りや箔が特徴です。



十二単

平安時代に始まった、身分の高い女性が着ていた着物。
今でも京都の祭などでの伝統的な行事のときに着られます。

職人

大工さん、植木屋さんなどの職人さんは、屋号(会社のマークの
ようなもの)を染めぬいたはっぴやはんてんを着ます。



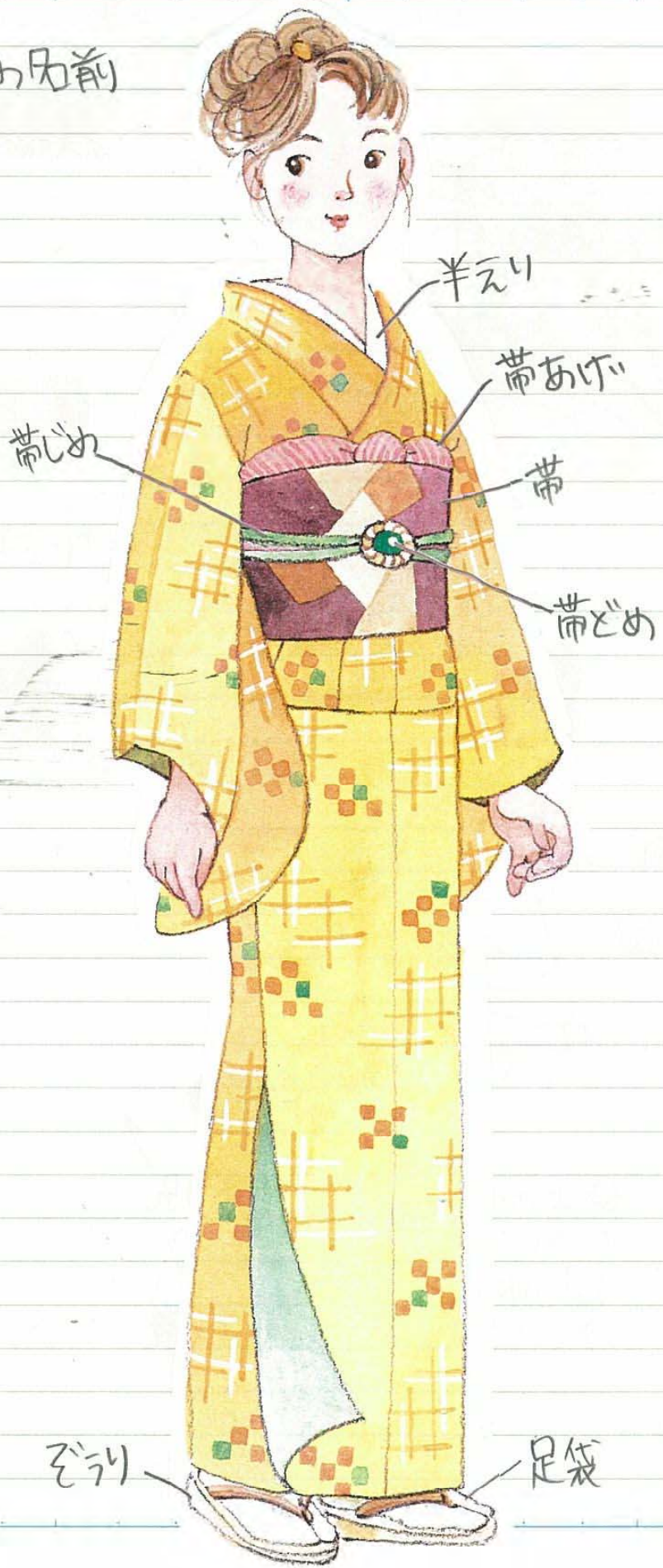
Q&A

Q 十二単の重さほどどれくらい?

A 20kg程度あり、春用、夏用
秋用、冬用があったとされている。

着物にまつ名前を知ろう!

着ているものの名前



寸法にかかある名前

袖丈

背中心 ゆき

身丈

袖幅



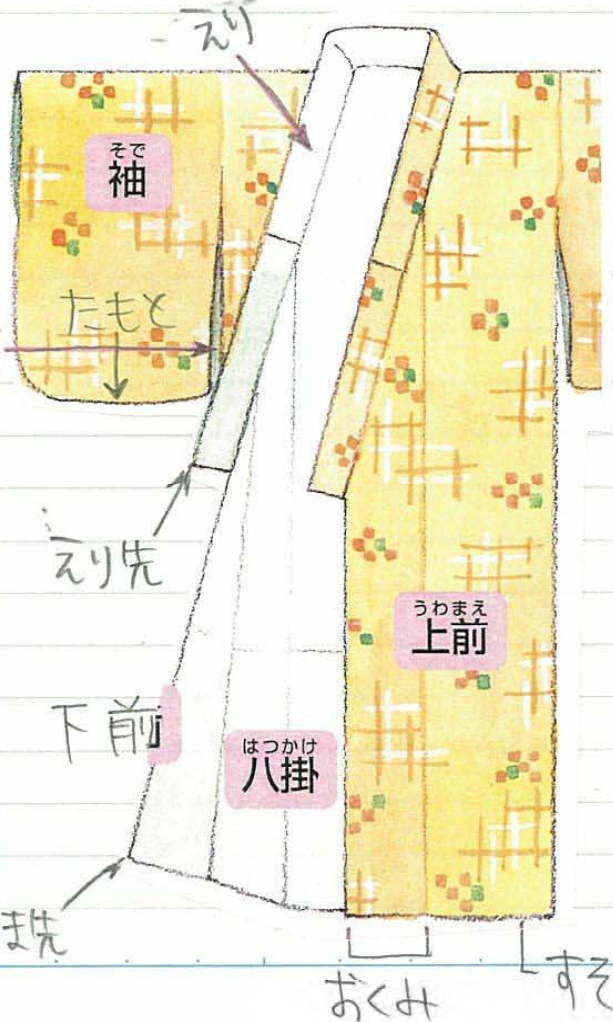
各部分の名前

袖 →

身口
(男の着物にはない)

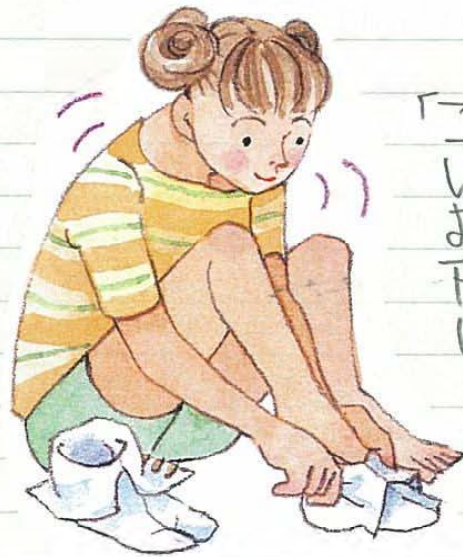


おはしり



着方を知らう! 簡単な手順

① 長じゅばんに半ズリをつける。② 足袋をはく。



「こはぜ」というホックめのようなものを、下からとめていきます。

長じゅばんに半ズリを縫いつけお。

③ さらよけを着る。

④ 肌じゅばんを着る。



腰にまいて
ついている
ひもで
結ぶます。



じゅばんが、ズリもとから見えないうちに注意してあおせます。

⑤ 補整お。



着物は体の凹凸がないほうが、きれいに着こなせるので、タオルなどをつかって、体のラインをととめえます。

⑥ 長じゅばんを着る。



長じゅばんの
着方で物姿が
できばえが
決まります。
えりあわせ、
衣紋の技き
具合、あそめ
位置をしっかりと
決めたら **腰ひも**
伊達じめを
結びます。

⑦ 着物を着る

着物を着て
ふたたび、
腰ひも、伊達じめ
を結びます。



着る時のポイント①

えりあわせをきつくあそ
(上のほうで合わせると、
若々しい印象に、ゆったりさせると、
落ち着いた印象になる。

⑧ 帯を結ぶ。

おなかの廻りに入れて、帯がしおに
ならない様にする「帯板」、帯を結ん
だとき結び目がくずぬように
つける「帯枕」などを使いながら
帯を結びます。



⑨ 帯どめを通し、帯じめをしめる。⑩ 帯あげを結ぶ。



帯じめに帯どめ
を通してから
後ろで



*羽織を着る
羽織めたもとの
中にきれいに
着物めたもとの
入れ前びもを結びま

着こなしのポイント②

「衣紋を抜く」とは、えりの後ろと首の間を
あけること。どのくらいあけてい子かにより
印象が変わり、広くなるほど「粗とされる。
ただし、場面や年齢次第でたらしない
印象になることもあるので注意。



MEMO

スエリ

着物のスエリを汚さないためと、スエリもとをしっかり決めるためにつけ子。肌と着物の境目をはっきりさせ、着物の色柄を強調する役目もある。白が基本で、色もめ、柄もめ、ししゅう入りなどもある。

長じゅばん

着物を汚さないためと、着物姿をきれいに見せるために着る下着。ちらりと見えることも考え、色柄などは着物とコーディネートする。

足袋

これは着物専用のソックス。つま先は2つに分かれていて、親指とそれ以外の指に分けている。基本は白だがおしゃ丸着として色柄のものもある。これは普通2枚から4枚ついていて、4枚が一般的。

あそよけ

着物のあそよけの汚れを防ぎ、あそよけの動きをよくし、下半身の補正もかねた下着。洋服でいえばハチコートのようなもの。

肌じゅばん

洋服でいえばキャミソールにあたる、着物用の下着。袖口から見えることもあるので色もめや柄もめがあり、レースなどをつけることもある。

腰ひも

すそめ位置や、おはしよりなど、決めた位置をおさえるために使う、細い袋縫いさねたひも。

伊達いめ

長じゅばんや着物の上にしめ着くおれを防ぐための幅が細い帯。薄くてしまりのよい、博多織がよく使われる。

帯じめ

帯の形がくおれない様におさえるのが目的だが、洋服のベルトのようにコーディネートをする小物。

帯あけ

帯枕を使ったとき、おおい隠すため結ぶもの。帯の形をととめ、着物と帯を調和させる意味もあるため、帯枕を使うお結ぶこともある。

帯どめ

帯じめを飾りアクセサリー。個性を出しやすいが季節感や場のふいふきにあおせた素材や形をえらぶこと。帯じめによってはつけない場合もある。

着物の小物を知ろう!



かんざし

まとめた髪にはす
棒状のアクセサリ。
つげ(木), ベッコウ(亀の
こうら), 銀などで作られ
ます。

根付



時言や巾着, 扇などを
帯にはさんだとき、
おちり落ちないために
つけ子かざり。次第に
根付けそのものを
見せることが目的となり
ました。本来は男性向け
の装飾品でしたが今は
女性も身につけます。



ぞり

エナメルや
佐賀綿, 絨織などの
はなやかな布でつくられ
た着物用のはきもの。
あらたまった場所には
いていくものほどかかと
が高くなります。
男性は骨表つきで白の
鼻緒が基本。



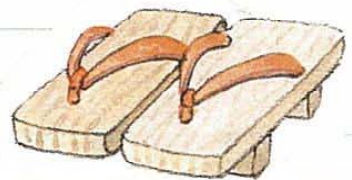
小裏紙

汚れをふいたり、
お皿がわりに使
たり、着物を汚さ
ないようにひざめ
上においたりす
る。着物には欠か
せない小物。洋服
で言えば、ティッ
シュとハンカチの
間のようなもの。



バッグ

絨織(わが織)や
佐賀錦(さかたけ)など
の布製のものが正
式です。洋装用の
バッグもあわせてか
まいませんが、牛
革やハビ革などは
着物から作らな
いものは避けま
す。



かた

江戸時代に
広まったもので、
素材や歯の形によ
ってたくさん種類
があります。ゆか
たやがすりなど
のカジュアルな着
物にあわせては
きます。

季節感と「格」が大切! TPOにふさわしい着物!

振袖

結婚していない女性の着る、一番格が高い着物。たもとの長さによって格が分かれ、長いほど格が上がります。全身で一つの模様ができあがる「**絵羽模様**」が一般的。

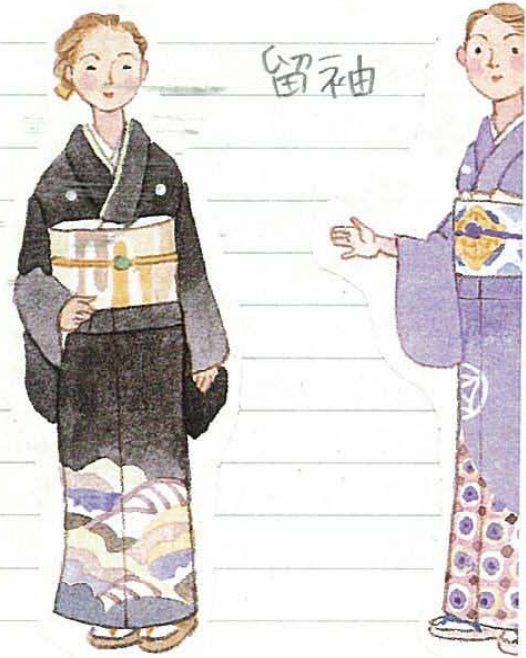
留袖

結婚している女性の着る、一番格が高い着物。たもとは短かく、おろだけに**絵羽模様**が入ります。黒地のものを「**黒留袖**」、色地のものを「**色留袖**」と呼び、黒留袖が格上とされます。

振袖



留袖



MEMO

絵羽模様

縫い目があっても模様が続いて見える仕立て方。

振袖の種類

たもとの長さにより大振袖、中振袖、小振袖に分かれ、ひざより長い中振袖が一般的。

紋付羽織袴

結婚している、していないにかかわらず、正式な場で着る男のための着物。羽織と長着は黒羽二重、編織りの仙台平の袴をあおせます。



紋付羽織袴

訪問着

色留袖や振袖よりもひかえめにしたいときの着物で、結婚しているもしていなくても着られます。

肩とおそに絵羽模様が入るのが基本。

付け下げ

訪問着を簡略にした着物で、訪問着より模様がシンプルになります。

あおせる帯の格によって、あらたまた場から気軽な場まで幅広く使えます。



訪問着



付け下げ

この他に...

一色で染められた「色無地」おしゃもぎである「小紋」「系留」などのランクがあります。

紋の数で格が変わる。

各家庭には、その家をおもむく「家紋」と呼ばれるマークがあります。背中に1か所、両胸、両袖に一つずつ、計5か所に家紋を入れた「五つ紋」がもっとも格が高く、背甲と両袖の「三つ紋」、背中だけの「一つ紋」とろつめうニワがあります。

黒留袖と紋付袴は必ず白抜きの五つ紋です。色留袖を五つ紋にすると黒留袖と同格になります。訪問着は紋はしつだけ。



帯によっても格が変わる。

丸帯

幅が広い帯地を折って筒状に仕立てた、裏も表もすべて柄がある重厚な帯。格は高いが、花嫁や舞妓に衣装につかわれてくらしい。

袋帯

表には模様があり、裏は無地に筒状の帯。あらたまった場に行くときにしめ子帯。

名古屋帯

体に巻く部分の幅を半分に折った、やや簡略化した帯。織りと染めがあり、織りの方が格上。

ほんははおび 半幅帯

半幅帯

ゆかたや普段着のときに使う、袋帯の半分の幅。帯じめ、帯どめはしないのが基本。

なごやおび 名古屋帯



ふくろおび 袋帯

ふくらすずめ 雀



着こなしを決める「粋」と「野暮」

ここまで述べてきた「格」や次から述べる季節感などはさほどさすに、着物をあてまに着こなせる人のことをほめるときに「粋」という言葉を使います。これよみがえしではなく、さりげないおしゃれに対する最高の評価です。反対にけなす言葉が「野暮」。ルールを守れなかったり、「粋がった」格好をしている人をそう呼びます。

「京ごめめ」と「江戸ごめめ」

着物文化は平安時代から都があった京都と江戸時代から政治と経済の中心となった東京で特に栄えました。それぞれ「貴族文化」「武家文化」という言葉でまとめられるように、京都では華やかさが、江戸ではシニールさが重視され、それぞれめ着こなしを「京ごめめ」「江戸ごめめ」と表現したためです。「粋」という漢字も京都では「すい」と読み、ほめられる着こなしも異なります。



こもがえは、着物の楽しみ!

季節は「一歩先」が基本。

食べ物なら、いちばん出盛り「旬」よりも、シーズンは最初の「はしり」をありがたがるように、着物の季節感も先取りするものが基本。花の柄ならば、その花が咲く前に着て、花のシーズンが終ったらもう着ない、というのがルールです。



季節限定の桜と、年中着られる桜。基本的に花の模様はその季節にしか着られないので、桜なら春先だけです。ところが、デザイン化された花びらだけの模様だったり、秋の花の葉などを組み合わせて描かれた「吹き寄せ」という柄なら一年中着ることができます。たとえば抽象的な柄でも枝が描かれていると「自然のもの」ということになりその花の季節にしか着られません。

こもがえは厳密な決まりごと。

6月1日と10月1日に、学校や役所ではこもがえをします。この習慣は平安時代には始まっていて、特に着物の世界では厳密な決まりごととされています。昔はこもがえが1日でもずれると野暮とされました。

| 月 | 着物 | 長襦袢 | 帯 | 羽織・コート | 帯×帯上 | ころもがえ早見表 |
|----|-----|-------|----|---------|------|---|
| 1 | 袴 | 袴(無双) | 冬物 | 羽織・コート | 冬物 | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |
| 4 | | | | 羽織・単衣 | | |
| 5 | ↓ | 単衣 | ↓ | 紗・絹・レース | ↓ | |
| 6 | 単衣 | 絹・紗・麻 | 夏物 | 紗・絹 | 夏物 | ※袴(無双)は 無双仕立ての意味 で袖などが外見は 袴に見えても、実際 はひとえに仕立て たもの |
| 7 | たもめ | | | | | |
| 8 | ↓ | | | | | |
| 9 | 単衣 | ↓ | 単衣 | 紗・絹 | 冬物 | |
| 10 | 袴 | 単衣 | 冬物 | 羽織・単衣 | | |
| 11 | ↓ | 袴(無双) | | 羽織・コート | | |
| 12 | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ | |



向かう季節を考える

袴は長い期間着ますが、おとこもめを着ているおかげではありません。着物の色や柄、素材の素材で季節感を出します。同じく、初夏に着る単衣と初秋に着るもちがう着こなしになるものですよ。

基本「仕立て直し」

今のように簡単に服を買うことができなかつた時代、ころもがえというめは、袴の着物をかたづけして単衣の着物を出すことではなく、袴の着物の裏地をほどいて単衣に仕立て直すことでした。

色で四季を表現する!

冬

白や銀など、冬の寒さをイメージする組み合わせ。

秋

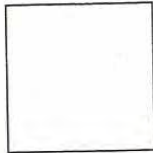
紅葉をイメージする赤系の組み合わせや落ちついた色の組み合わせ。

夏

涼しい藍色の組み合わせや濃い色同士で引き締まったイメージをつくる。

春

新緑と花の色の対比や花びらの色の変化を楽しむ組み合わせが中心。



氷重: 鳥の子 + 白



紅葉: 赤 + 濃赤



杜若: 二藍 + 萌黄



桃: 淡紅 + 萌黄



枯野: 黄 + 青



竜胆: 蘇芳 + 青



蓬: 淡萌黄 + 濃萌黄



紅梅匂: 紅梅 + 薄紅梅

植物生まれの伝統色

色は植物の花や葉、石や土などからつくられました。なかでも植物は約300種類が材料として使われたと言われます。植物の名前がそのまま色になり、その植物が出盛るころが、その色が使われるシーズンとなるのです。

春 桜色、山吹色、菜の花色 夏 藤色、若草色、茄子紺

秋 紅葉色、露草色、団栗色 冬 椿色、橙色 など

季節の行事にあわせて楽しむ

四季の変化が豊かな日本では、季節ごとの行事も盛んです。十五夜はうさぎ柄、クリスマスにはひいらぎ模様、七夕の日には短冊柄など、連想ゲームの様に楽しむこともできます。



模様にもめられた意味を知ろう!

吉祥文様 吉祥とは「よい前兆」という意味で身につける着物におめでたい意味のある文様をつけ、幸せを願います。



めし



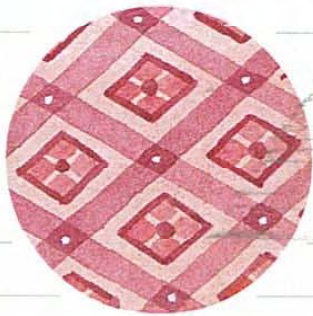
おどり



扇

長寿/鶴、亀、菊、めし、夫婦円満/おどり、出世、成功/扇、琵琶、鯉、うさぎ、など、貝、など

有職文様 平安時代、貴族に必要とされた「有職」という決まりごとにもとづいた文様。幾何学的なデザインで、品格があります。



たあき/ひし形が連続する幾何学な文様。三動だあき、たあき菱、菊菱たあきなど。立涌/ひくらんだりすぼんだりす曲線が立涌で、間に入るデザインにより、雲立涌、唐立涌など。丸文/丸い形の文様を散らす。八幡文、鴛鴦(らんおう)文、向かい蝶文など。

具象文様 植物、動物、人物など身近なものをかたどった文様で、友禅染めとともに広まった、はなやかな文様



四君子/梅、竹、蘭、菊を配した文様。



御所車/平安時代の貴族が乗っていた牛車を文様にしたもの



竜田川/流るる水にもみじを散らした秋の代表的な文様。

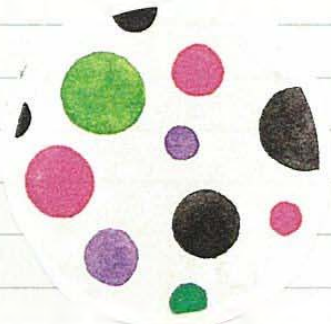
モダン柄 明治時代や大正時代に出た柄や伝統の柄でも逆に現代では新鮮に感じものなど。おしゃれ着向き。



花柄/バラやチューリップなど、新しく西洋から入った花もモチーフとなった。



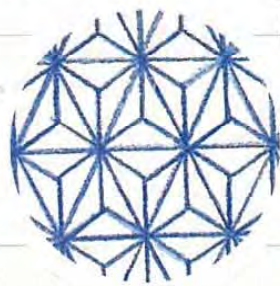
千鳥/伝統的な夏の柄ながら今も人気。



水玉/幾何学模様も、色の組み合わせでモダンに。

生地にも意味がある。

ししゅうや染めで書かれた模様以外にも、着物の生地そのものに模様が織りこまれていることがあります。



麻の葉/麻の葉はまっすぐ育つことから、子供の成長を願い、産着の柄によく使われます。



青海波/雅集の青海波の衣装につかおネ子文様が一般に広まったもの。特におめでたい柄として使われます。

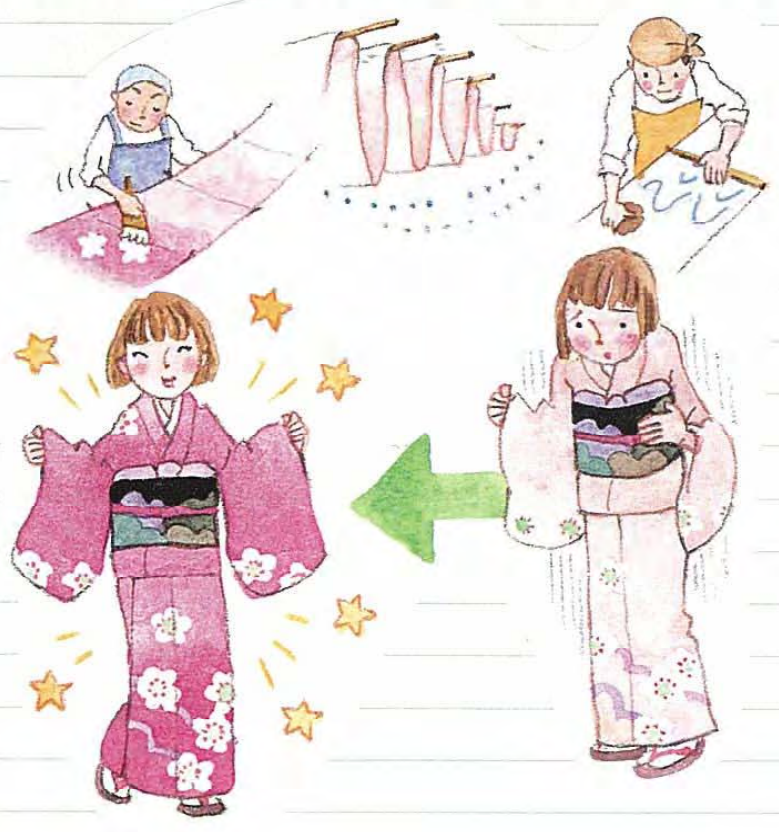
着物をリメイク、リサイクル!

洗ってリフレッシュさせる

着物は基本的には洗いませんが「汚れがひどくなった」たびぬぐくと、「丸洗い」や「洗い張り」をします。丸洗い(京洗い)はそのまま全体を洗い、洗い張りは縫い目をほどこいて布の状態に戻してから洗う方法です。洗い張りは手間も費用もかかりますが、生地がしゃんとし、生まれかかったようにきれいになります。

色を変えろ

色にしろが出てきたり洗っても、汚れが落ちないときは濃い色に染めかえます。同時に洗い張りもすると新しい着物の様になります。



布が薄くなったならリサイクル

どうしても落ちないシミがったり、生地が薄くなってしまったら、まずはリメイク。生地が使える部分をはぎ合わせてし着の着物にしたり、羽織やはんてん、帯など、形をかえて利用します。

もちろん、切った部分や仕立て直して余った部分も、布を足したりして別のもめにして使います。最後はおしめやぞうきんにと、いかに無駄なく再利用するか、知恵をたらかせました。



まずは...

- * 布を足して別のもめ着物に
 - * 切り落とし羽織やはんてんに
 - * 細い部分は帯に
- 余った部分は...
- * 前かけに
 - * 巾着などの袋もめに



- さらに古くなったら...
- * 木綿ならおしめに
 - * ぞうきんに
 - * 細かくしておしめなどのつめもめに

江戸時代の女性スタイル

着物の特徴の一つに、年齢や、結婚しているかしていないかによって着なしが決められているという点があります。着物姿が完成した江戸時代ごろは今よりもっとはっきりした区別がありました。

お姫様

おかみさん(町人の妻) 娘さん(結婚していない町人の娘)



外を歩く必要がないので着物のすきは平きずほど長い。

結婚している証として眉毛をより落とし、歯を黒く染めた。(おはぐろ)

着物の色が地味なかわりに派手な色のじゅばんを着た。

髪型：吹論。びらびらかんざしと呼ばれる、おやかかなかんざしをつける。

髪型：打髷

髪型：島田

着物：小袖の上にしゅつめいに入った豪華な振袖の打掛。

着物：ちりめんや袖(びざ)などを多くきる。

着物：えりが黒い小袖に帯をたらしてしめる。

着物を身近に

ゆかたを実際に着てみる!

必要なもの / ゆかた、肌着、帯、腰ひも、伊達じめ

①



肌着を着てからゆかたを
はおり、左右のえりを
そらえて持って軽く引
はおり、背中め中心を
あわせ



えり先から20cm
ほど上を持って、
くさりが見える
くらいに引きあげ、
すその位置を
決める。
すその位置を
守りながら左手側
(上前)のほしを
右の腰め骨に
あわせ

③



上前をいったんほし
右手側(下前)を
左手側と同じよう
にあわせ、右手
に持ったゆかため
ほし(つま先)を
5cmほどななめ
に上げて、左の腰骨
めところにさしこむ。



左手側めつま先も
少し上げ、腰骨め
ところに持ってこるよう
上前を重ね、右手で
押さえる。

⑤



⑥
 肩骨の上2~3cm
 のところに腰ひも
 をあて、前から後
 りに回して交差
 させてから、前で
 結ぶ。余った部分
 (は胴に巻いた部分
 にはさみこむ。



身入口から両手
 を入れて、前と
 後ろめおはしよ
 りをつくる。

⑦



⑧
 左右のえりを押し
 ながら背中をそと
 引、はみ、えりを
 出す。



右手め、上前めえりを
 持ち、左手を身入
 口から入れて、前め
 えりを引き、えりめ
 あおせをととのえり。



⑨ 胸の下ぐら
いで伊達じめを
結び、全体を
とどめろ。



帯を結んで
完成!

帯を結ぶく具の口



① 帯の片方の
(テ) 端から50cm
↓
ほどを半分
に折る。(テ)



② 折り終りを体の
中心にあわせ、体に
2回巻きつける。
こまかく引っ張りなが
ら、きつくしめろか
ポイント。



③ テと同じぐら
いの長さを残し
(タレ)、余った
分は内側に
折り返す。




④ タレを上に
して、テの下をくぐ
らせて結ぶ

⑤ 夕しを下ろして折り、
三角の輪をつくる。



⑥ その輪の中に「テ」を通し、
形をととめる。



⑦



左手で結び目の下を
右手で結び目さし
かりとつかみ、
右にまわして後ろ
にやる。

ほかにも...こんな結び方



文庫結び



花結び

MEMO
具の口

男の人でも女の人でも使えるシンプルな結び方。男の人の場合、結び目の
中心を右か左にずらすのが「粋」とされる。

テ(手、手先)、夕し(垂れ)

帯を結び始める端が「テ」、その反対が「夕し」。

うちね

ゆかたにかかせないうちね。お祭りめときなどに配られているもめではなく、
ゆかたにあかせたもめを持っていくのが「粋」。

男の人のゆかた

男の人の場合、おはしをとりず、足首が出るくらいのみ丈で着ます。帯を腰の位置でしめるのがポイント。

髪を結ぶ

着物を着たあポイントはえり足です。まとめたり、アップにしたりして、えり足を出さときれいに見えます。

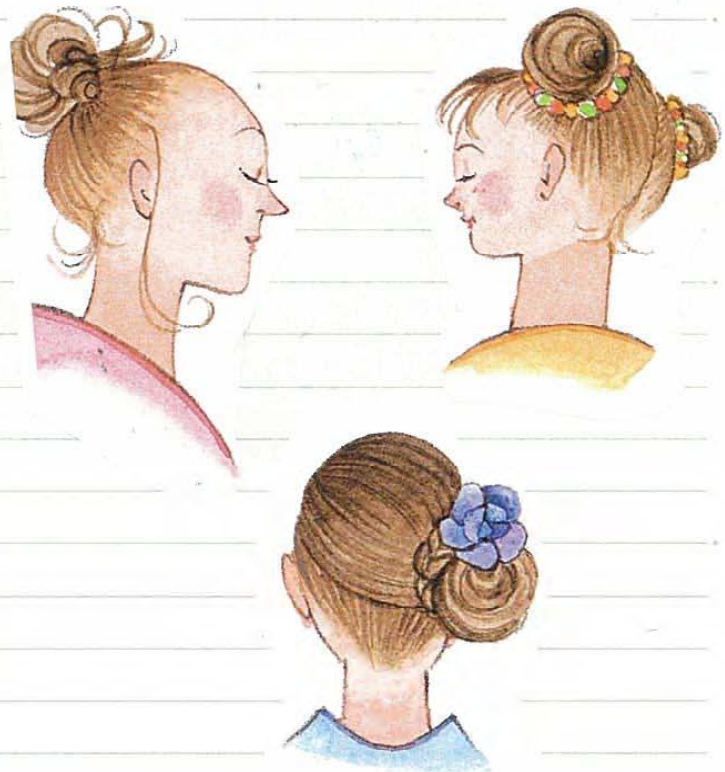
ゆかたを着る前にやっておこう!

*トイレに行く

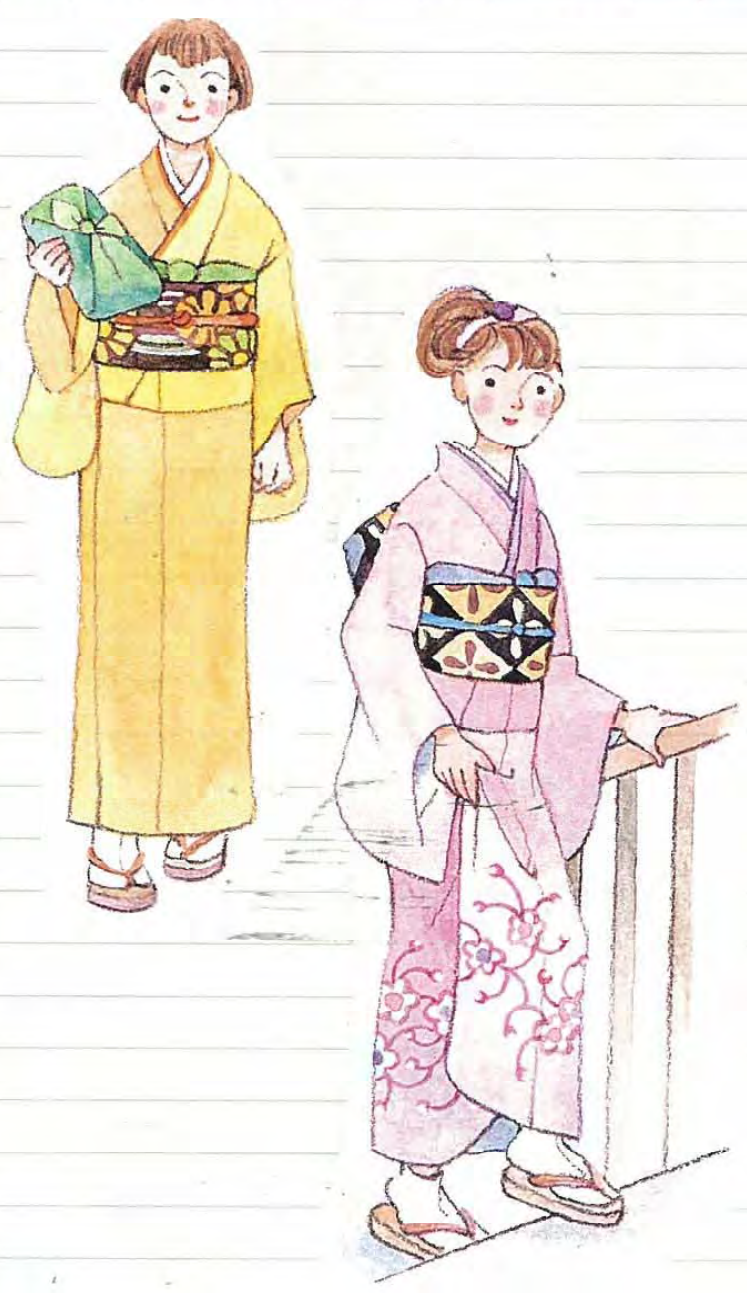
ゆかたを着たあとにトイレに行くと着くおれしやくなります。

*髪をセットする

髪を結ぼうとして腕をあげると、着くおれのもとになります。ゆかたを着る前に結んでおきましょう。



着物での体のまはき方



歩くとき

歩くときは、あそがめくれないようにあそめがポイント。歩幅が小さく、つま先をやや内側にし、むちをありあせするように歩きます。
つま先から着地すると、どろりが音を立てません。むちを上げたリ外まで歩くと着くおれの原因になります。
階段など段差があるときは、あそがすらない様に上前を軽く持ち上げ、足袋が丸見えにならないように、軽くつま先で立つ感じをまほります。

イスに座るとき

洋服とはちがひ、着物には帯めふくらみかあそめで、帯がっぶれない様に浅めに片腰かけます。むちを90度以上曲げるとあそが(おだけあそ)足はあそえてやや前に流します。



物をとるとき

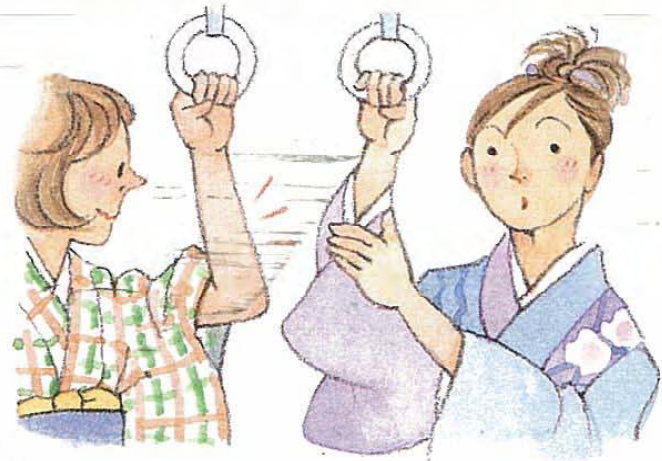
遠いものをとるときはひじがあたりたもとが何かにぶつかったりしないように、たもとを手でおさえます。

手をおげるとき

着物が重くときはひじを見せないのが基本です。高いところの物をとったり、電車などでフリ草をつかむときは袖がまくれないように反対の手で袖口を押さえます。

あおぐとき

着物のめときは、腕の動きは動きだけ小さくしたいもめ。うちねや扇子は親指を外側にして持ちひじは動かさず、手首だけ動かしてゆったりあおぎます。



☆身のこなしのポイント☆

- ・足を高くあげない・広げない!
- ・すそ、袖がめくれないように重く!
- ・動きは小さいほど優雅!

着物の工夫、知恵 こんなときどうする？

雨の日

水や泥などが汚れに弱い着物のために、さまざまなほりあお「雨ゴート」があります。雨ゴートは水をはじく目のつまった生地や洗える素材でつくられています。また足袋がよごれないように、げたやぞうりには「爪ガけ」をつけます。



暑い日

着物に、えり、衽、身ハ
口など、風の通り道が
多いのは湿度の高い
日本で生まれた服
だから。さらに涼しく
あすために麻など
汗さあいやあ素材
にしたり、絹や、紗
などの薄く織られた
着物を着ます。



寒い日

寒い日の対策は内側に
着込む方法と上からはあ
る方法があります。
じゅばんをかきかたり、
「ねこ」という綿いりの
袖がない下着を着こみ、
外出するときには、羽織
や道中着、道行などを
着ます。羽織は洋服で
いうとジャケット、道中着
道行はコートにあたります。



小物から楽しむ、着物、ゆかた



かんざし

塗りのおはしの太いほうに、ビーズやハギレに綿を入れてしぼたもめなどを飾りつけるだけぞ、かんざし風アクセサリーが出来上り。



リボン



ビーズ



かい貝



トンボ玉



ビーズ

帯じめ・帯どめ

かわいいレースやリボンなどはそのまま帯じめに利用。ボタンや貝殻などを貼りつけると、帯どめふうの飾りになります。



手まり

ボタン



どんぐり



犬張り子



ちりめん細工



うさぎ

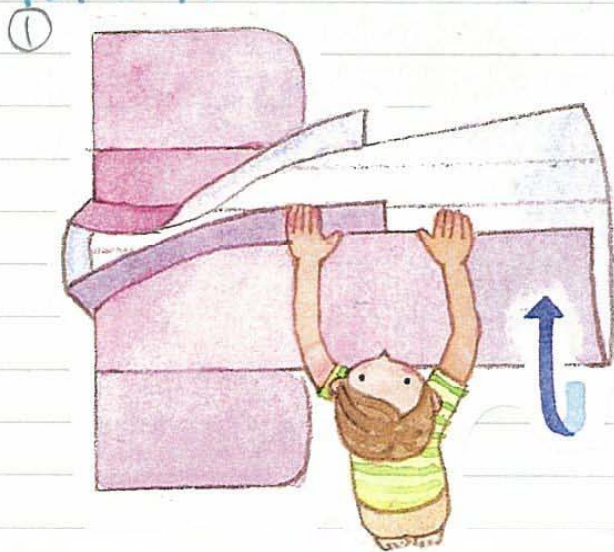


根付け

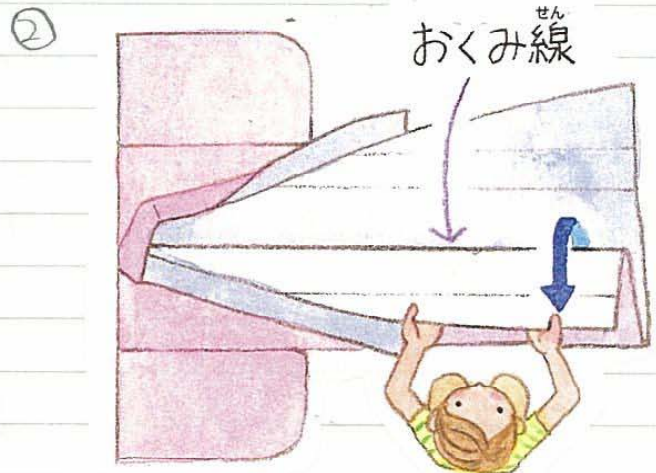
手芸店で売っている根付け用のひもに好きな飾りをつけると出来上り。

キータイのストラップやキーホルダーをそのままつけても素敵らしく見えます。

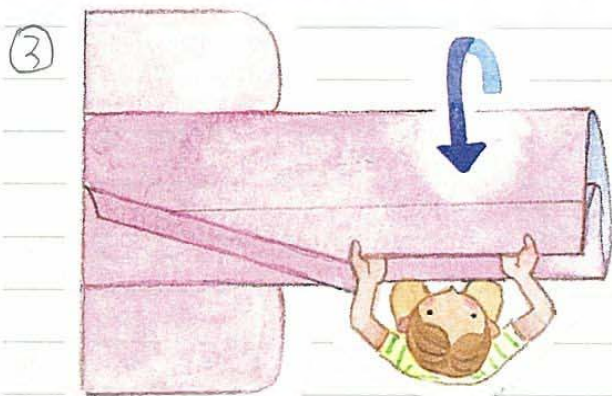
着物をかたづけ
たたみ方



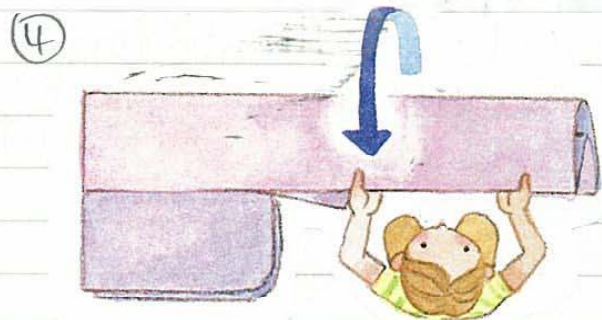
すそが右側になるように置き、
下前のおきを線にそって折る。



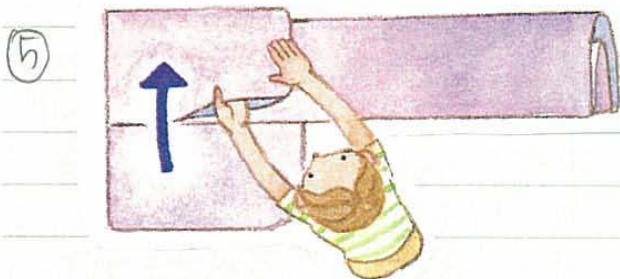
下前をおくみ線と揃いに
折り返し、背中側のすそ
を内側に折り返す。



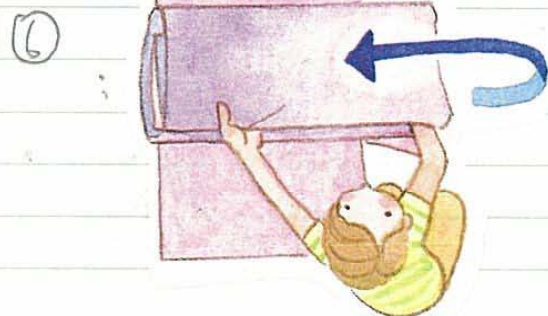
上前のおくみを下前のおくみ
に重ね、すそも重ねる。



上前と下前おきをかさね合わせ、
半分に折る。



上の袖をひろく。



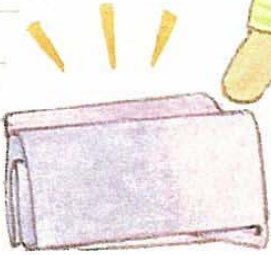
すそを左側に持ってきて
2つ折りにする。

⑦



右袖を下側に
折込む

完成!!!



着物をしまつための道具

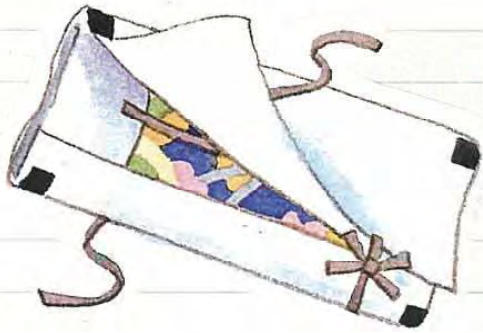
えもんかけ

着物用のハンガー。洋服のようにカーブせず、
かける部分が長い直線になっています。



懐紙・障子紙

湿気を吸おせ、カビを防ぐために、
着物と着物の間にはさみます。



たこす 畳紙

洗やうしきぬって、折り目をつけた、
着物用の包み紙。長期間
しまつときなどにつかえます。

行李

柳などの植物で編んだ通気性
がよい、たつきめかご。ふたが
深いのでたくさんしまつことが
できます。



* * * もっと着物を知る * * *

染め、織りの基本

染め

織りあがった生地を、染料につけたり、直接模様を描いたりして、色や柄をつける方法。代表的な染め方に、手描き、型染め、絞りなどがあります。



手描き反彈

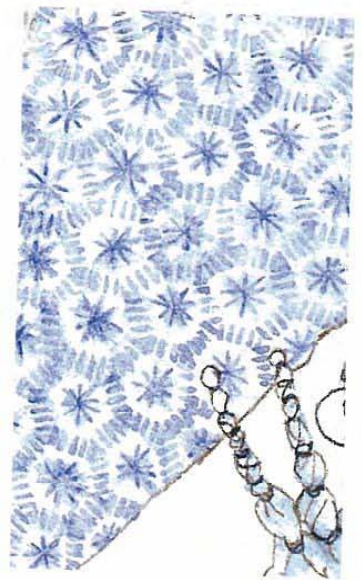
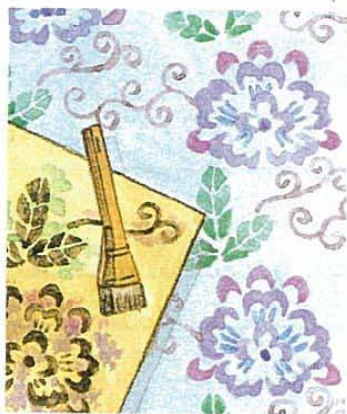
江戸時代に宮崎友弾が始めた染め方。特殊なめしを開発したことで生地に直接、絵を描くように模様を染められるようになりました。着物はいまに華やかになりました。京友弾、加賀友弾、江戸友弾が有名

型染め

模様を切り抜いた「型紙」を生地にあて、染料をのせ、模様をつける染め方。同じ模様をたくさんつくるのができます。小さな「小紋」と版画のように色ごとに型紙を変えて「型反彈」があります。江戸小紋、京型小紋、紅型など。

絞り

染めあ技法の一種。白の着地を糸でしばってから染めると糸を結んだところは染まらず、白く残り、ちぢんで独特の手ざかりになります。京鹿の子絞り、有松、鳴海絞り、辻が花など。



ししゅう(ぬい)

生地に絹糸を縫いつけて
模様を描く技術。主に
友禅染めの着物の柄に、
立体感や豪華な雰囲気さ
出するために使われます。
京都で発展したものを
特に「京ぬい」と言います。



織り

色をつけた糸を織りこむことで、模様をつくりだします。糸のつむぎ方、染め方、
織り方により、模様や生地の雰囲気が変わります。



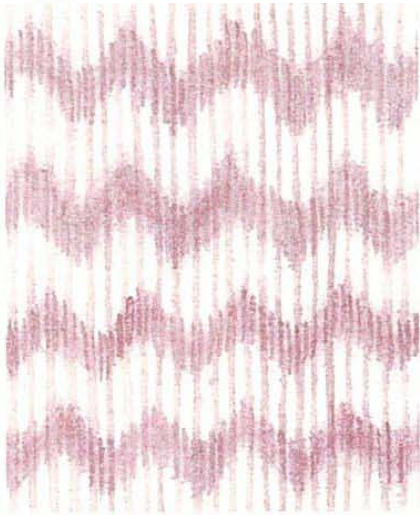
紬

かいたのまゆからとれた真綿で織った
絹織物のこと。結城紬、大島紬、
黄八丈などがあります。
手間のかがり織物で、あせり帯や
ぞらりによつておしゃも着にもなる。
着なしの幅の広い着物です。



かすり

木綿の着物の代表的な柄が「かすり」です。糸を染めるときに部分的にくり、染まらない部分がある糸を使って織ること、模様が生かれます。久留米絨、備後絨、伊予絨が有名。



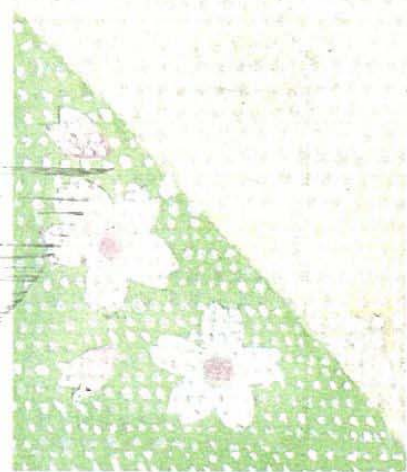
西陣織

金色や銀色の糸を使って織った豪華な織物のうち京都の西陣で織られたものを、特に「西陣織」と言い、主に帯に使われます。同じ織物の「左賀錦」はバックやぞらりに使われます。

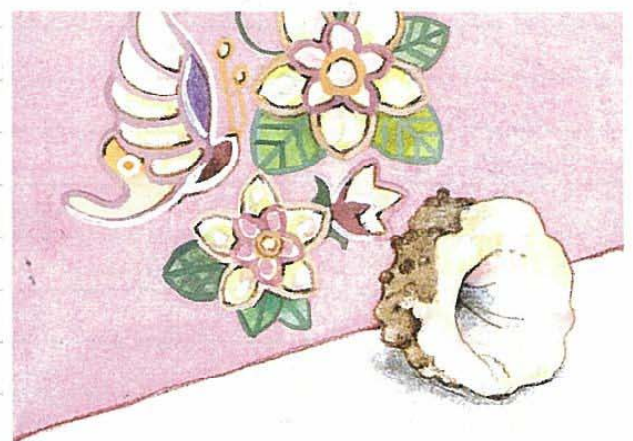
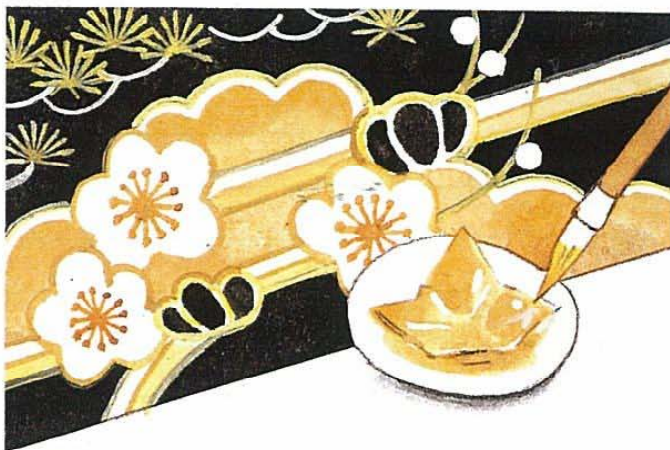


ちりめん

主に、染め物用の生地として使われる絹織物。糸をつよくねじってから織るため、「ちりめんしぼ」と呼ばれる細かい「こぼこ」ができ、染めるときに色に深みが出る。白生地を取り引きされ、後から地染め、友禅染めなどで染められます。



他にもこんな染め方



箔置き

生地の上に、金箔や銀箔などの金属の箔をつけて着物を着飾る加工方法。箔がきらきらと光り、せいとくな雰囲気になります。

蝶貝鈕

貝がらの内側の虹色に光る部分を薄切りして、着物にはりつける方法。貝の角度によって色が変化する美しい細工です。

Q&A

Q 友弾とは？

A 江戸時代中期(1678年)京都知恩院門前に宮崎友弾という人が住んでいました。元々友弾は扇絵師だったため、扇に酒落・遊びっいはいぬ絵を書くことが大評判となって扇だけでなく小袖などの衣装の染め模様にも友弾の絵をとり、注文がされるようになりました。

全国染め織りマップ



芭蕉布、
紅型 (沖縄)

本塩沢 (塩沢御召)、
小千谷縮 (新潟)



博多織、
久留米紬 (福岡)

京友禅、西陣織、
京型小紋 (京型友禅)、
京鹿の子絞り (京都)

信州紬 (長野)

加賀友禅 (石川)

佐賀錦 (佐賀)

備後紬 (広島)

薩摩紬 (鹿児島)

大島紬 (鹿児島・奄美大島)

阿波しじら (徳島)



有松・鳴海絞り、
名古屋友禅 (愛知)

秋田八丈、
茜染め (秋田)

南部絞り (岩手)

白鷹御召 (山形)

仙台平 (宮城)

結城紬 (茨城)

伊勢崎紬 (群馬)



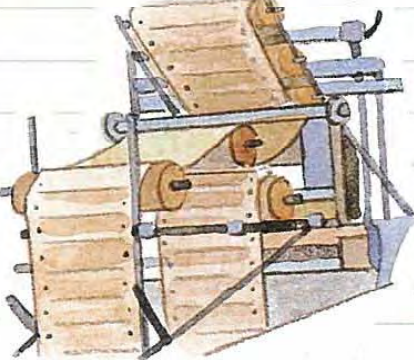


江戸小紋、
江戸友禅 (東京)

黄八丈 (東京・八丈島)



着物年表

| 糸 | 織り | 染め |
|--|--|---|
| 麻や木綿などの植物や動物の毛、かいのまゆなどからせいをとりあおせ、糸を作り出す。 | たての糸の間によ糸を通すことで布は織られる。手だけを使う機械から足踏み式・機械式と、織りの発達は着物の発達にもありました。 | 布を丈夫にしたり、虫よけ、魔よけなどの目的から布を染めるようになった。次第に美しさを求めて、技術が磨かれていきました。 |
| 縄文時代/自然に生えている植物のせいを布が織られる。 | 古代/「原子機」という簡単な織り機が使われる。中国から伝わった織り機により、布の質が向上する。 | 古代/身のまわりにある草花、石や土などをそのまゝ煮出して色を取り出した。 |
| 弥生時代/布を織るために麻を栽培したり、かいを育てるようになる。麻や絹の織物は税金として国に納められた。 | 奈良時代/足や腰に結んだひもを使ってたて糸の上下を入れかえる「土機」が使われる。扱いがむずかしく、仕上げは奥手で左右。 | 飛鳥時代/自然の染料に別のものを混ぜて、より鮮やかに染める技術が中国より伝わり、色の種類が増える。 |
| 麻/日本にきとも生えていた植物。成長が早く、きの皮からせいを取る。 |  |  |
| 絹/かいとというかみゆからせいをとる。糸にしたものを「生糸」と呼ぶ。 | | |
| 木綿/綿の木にできる綿花からとったせいをつむいで糸にする。 | 室町時代/イスに座り、足で板を踏んでたて糸の上下を入れかえる「高機」が中国から伝わり、質とスピードが向上する。錦織や綾織用の織り機として西陣を中心に使われる。 | 平安時代/きれいな色の着物を着ることが豊かさの証明になった。 |
| | |  |

| 糸 | 織り | 染め |
|--|---|---|
| <p>桃山時代 / 綿の木が栽培されるようになる。</p> | <p>桃山時代 / 西洋との貿易によって唐機やビロード織りの技術が伝わる。</p> | |
| <p>江戸時代 / 麻にかわり、やたらかくて染めやあい木綿が庶民の普段着になる。</p> | <p>江戸時代 / 庶民も絹を着るようになり、絹織物用の高機が広く使われる。</p> | <p>江戸時代 / 染めを専門とする「染屋」が職業として定着。染色が産業として発展。</p> |
|  | <p>明治時代 / フランスからジャカード織り機が伝わり、文様を織るのが簡単になる。イギリスからは水かや蒸気をエネルギー源とする、大量に糸をつまぐことができる新機が伝わり、生産量が50倍になる。</p> |  |
| <p>明治時代 / 生糸が輸出品の中心となり、絹織業が経済成長を支える。</p> |  | <p>明治時代 / 化学薬品を使った化学染料が輸入され、毎度した色で大量に染めることが可能になる。</p> |
|  | <p>大正時代 / 自動織機の開発により、日本は世界一の織物生産国となる。</p> |  |
| <p>昭和初期 / 化学セーロは着物がつくられ、高価な絹の代用品として広まる。現代 / 国産の天然セーロが見直されるようになる。</p> | <p>現代 / コンピューターを利用し、複雑な文様を織ることが可能になる。</p> | <p>現代 / 化学染料が中心だが、自然の染め物も、工場の中心に技術が受け継がれる。</p> |

現代の着物事情!

輸出品の中心から輸入品へ

明治維新後、昭和のはじめまで、日本のせい品は海外への輸出品の約60%を占め、日本の貿易産業の中心的な存在でした。それが最近では海外からの輸入のほうが多くなり、国内の織物の生産量自体も減ってしまっています。



日本の着物のふりこぎとは?

日本独自の服装である着物を原料から見ると、天然素材であり、麻や木綿、絹などにしていてもインドや中国などからの輸入にたよっています。化学せいの着物は原料となる石油はほぼ100%輸入されています。日本の民族衣装である着物は、今は海外生まれ、日本育ちといえるかもしれません。

技術者を受けつぐ

工程は機械化されていくうちに「しんどい」「古くさい」などのイメージを持たれ、着物づくりの技術を受けつぐとあする人は減るばかりでした。しかし最近では、伝統の技を守ろうとあする職人さんたちの努力と、機械生産とは違う手工業のよさが見直されるようになり、職人をめざす若い人や外国の人も増えてきています。

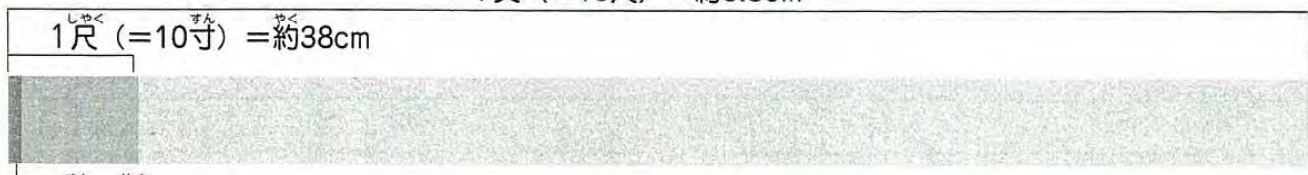


着物と単位

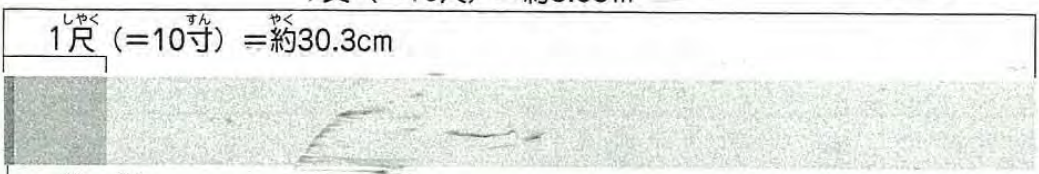
明治時代になってさまざまな西洋の文明とともに、長さや重さを表す単位としてcm, kgなどの「メートル法」が輸入されました。今ではほとんどのものが「メートル法」で表されていますが、それ以前は日本独自の「尺貫法」にもとづいて長さや重さが表されていました。

着物は今でも尺貫法を基本としますが、建築などで使う「尺」よりも1.25倍の長さの「鯨尺」を使います。1丈2に使うのでやや細かい鯨のひげで作られた鯨尺が適していたのでしょう。

1丈 (=10尺) = 約3.80m 鯨尺



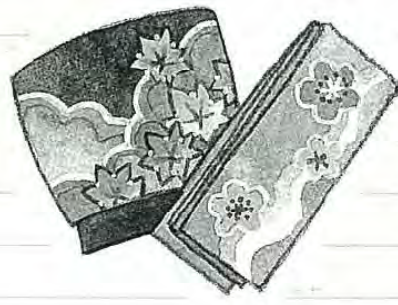
1丈 (=10尺) = 約3.03m 通常の尺



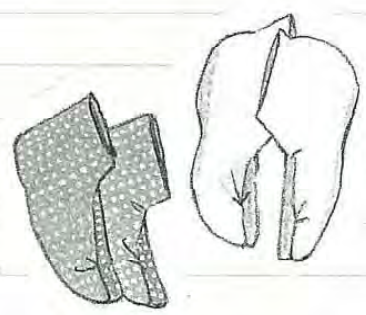
反



疋



文



おこな用の着物一着分の
布の大きさを示す単位。
幅約37cm×長さ約12m。

帯を数える単位。ほかにも
糸、篩などともいう。

足袋のサイズをあらわす
単位。当時の金
(一文銭の直径(2.4cm)
がもとになっている。

* 続、もっと着物を知ろう *

着物年表 2

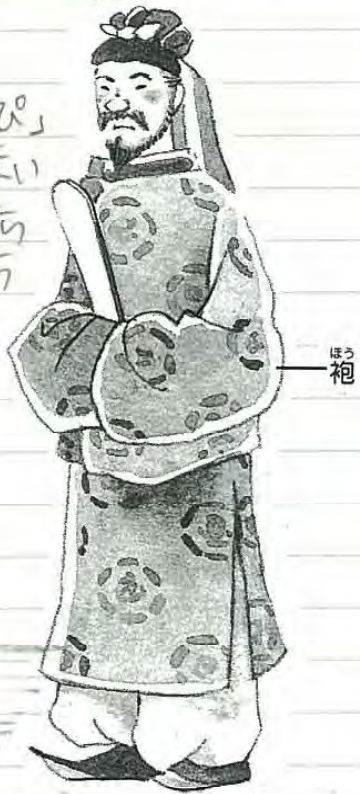
奈良時代 中国の影響を強く受けた時代。衣服も中国風でカラフルです。

奈良時代



衣の上に「背子」というベストを着て「裳」というスカートをはき、肩から「領巾」というショールをかける。

白い袴に「半び」という袖のない上着を着てさらに「袍」という上着を着る。

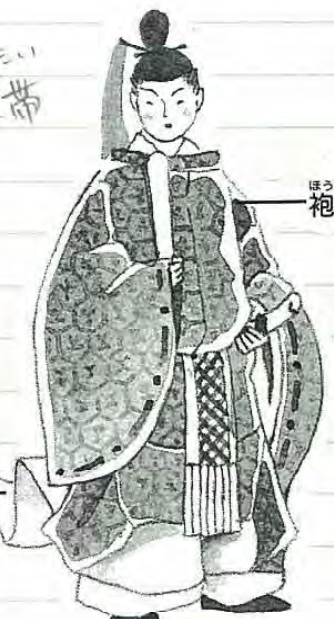
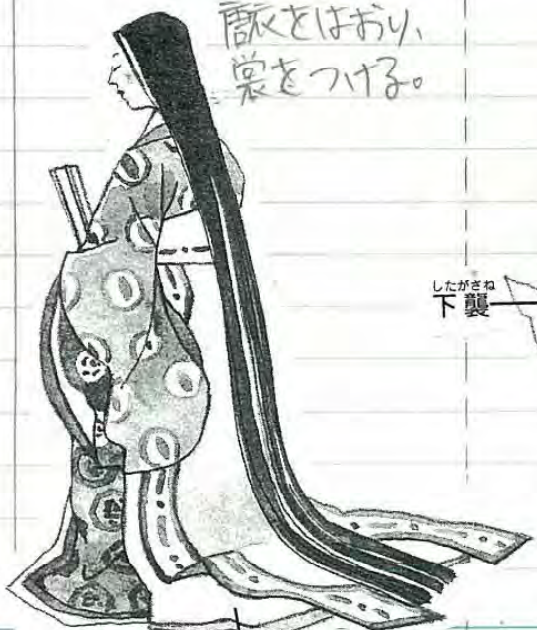


平安時代 日本独自の文化が栄達した時代。着物を多く着重ね色の組み合わせにこだわる様になりました。

平安時代

十二単
小袖を着て長袴をはき、その上に単を着て色のちがう衣を重ねる。さらに打衣、表着を着てから「裏」をはき、裳をつける。

東帯



半び、袴、下襲、単を着てから袍という上着を着る。下襲の長さは2mもあった。

しだいに簡略化した直衣が正装となる。

鎌倉時代 武士が力を持つようになり、着物の重さやよく実用的なものに変わっていきます。

鎌倉時代



小袖の上に、袴
や袖の広い着物
を着る。袴は省
かれますようになった。

平安時代の普段着
が直重として
正装となり

ひたれ
直重



室町から安土桃山時代 武士が社会の中心になっていくなかで、正装も簡略化されていきます。小袖が表着になるなど、現代の着物の原型が生まれました。

室町から安土桃山時代



それまで着
にあった小袖
に細い帯を
しめて着るよ
うになった。

直重の一種で
ある素襖が
正装になり、
さらにそれを
略式した
肩衣を着る
ようになった。

すあし
素襖



江戸時代

戦いがない豊かな時代になり、織りや染めの技術が磨かれました。江戸時代中頃に、現代の時代劇で見えるような着物の形が完成します。



帯の幅がだんだんと
 大きくなり、フランス
 をとるために髪型
 も大きく結あがる
 ようになり、日本髪
 も発展する

江戸時代
 の略装だった
 肩衣と袴のセ
 ットが袴と
 して武士の正
 装となる。



かたが
み
袴

かたが
み
肩衣

なが
はか
長袴

現代の着物事情②

西洋文化の影響

外国との交流がほとんどなかった江戸時代が終り、明治時代になると、様々な外国の技術や文化が入ってきました。これまでの日本にない色や柄、化学的な染料や織り機の輸入により着物は大きく発展します。しかし、だいに、洋服や、TシャツやTシャツを使った西洋の生活習慣が元まきることになり、着物は日常的に着られなくなっていったのです。



着物の復活

着物を着る人が減りつづけるなか、洋服は目にはしないような着物の着こなしがでてきて新解釈にうつるものが、最近では伝統的なルールにしばられることなく、洋服のように自由な感覚で着こなす人が増えました。時代にあった着物文化が生まれつつあるのももしません。

まとめ

調べてみると着物はずいぶん奥が深くてビックリしました。調べ前まではかたいイメージしかなく、「自分ではとてもきかない」など勝手な考えにとらわれていましたが、思っていたより身近でいいなと思いました。

利用した本・サイト

本 和の文化に触れてみよう！着物の大石研究 馬場まゆ

サイト ワイキパティ

着付け入門講座
きものさんぽみち

※1作品につき下の応募カード2枚を必ず記入のうえ、作品に添えて提出してください。

第3回恵庭市小中学生
調べる学習コンクール
応募カード

□にレを入れ、必要事項を記入してください。

受付番号 ※記入不要
3

※次の個人情報については、「本コンクール」及び「全国コンクール」以外の目的には使用しません。

応募部門 小学生の部 中学生の部

作品タイトル 日本文化の代表「着物」

ふりがな はたけやま けい

応募者氏名 畠山 恵

2名以上で1作品に
取り組んだ場合〔 〕人
※全員の名前を書いてください。(別紙可)

学校名 柏陽中学校 (2) 年生
担当者名 () 先生

<作品づくりのポイント1>

- ★調べるテーマは自由！ テーマはなんでもかまいません。身近な疑問や興味を持ったことを調べましょう。
- ★「大切だな」「おもしろいな」と思えるテーマを自分で決めましょう。
- ★テーマを探しに学校図書館や市立図書館や市立図書館に行ってみましょう！